

科目区分：造形芸術コース・学校教育実践コース（美術教育専修）

授業科目名：平面基礎演習Ⅰ・絵画基礎演習

タイトル：絵画の合同基礎授業

執筆者の所属：美術教育講座

氏名：東 慶太郎

1. 授業の概要

上記ふたつの授業科目は、学校教育実践コース（美術専修）・造形芸術コースそれぞれの1回生を主対象とした絵画分野の基礎実技（必修科目）である。しかし、学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースでは、課程の教育目標、学生の学習目的・実技能力などが異なっており、実施にあたっては、目的の異なるそれぞれの学生の基礎実技科目として有意義なカリキュラムを編成し、指導内容を工夫することが求められる。

登録学生数と内訳

学校教育実践コース

美術教育専修 1回生 3名

2回生 1名

国語教育専修 3回生 1名

造形芸術コース 1回生 11名

造形芸術コース 3回生 3名

造形芸術コース 4回生 3名

総計 22名

授業の目的（両コース共通）

単色（主として鉛筆）による絵画表現（一部、映像メディア表現を含む）を経験し、技法、材料・用具の扱い、画面追究の基本的な考え方を学び、作品の評価や追究方法等に関する判断力を身につける。

授業の到達目標（両コース共通）

1. 的確な写実表現（形・調子）ができる。
2. マテリアルを自在に使いこなすことができる。
3. 主体的に形態・調子等の造形的追究ができる。
4. 作品の優れた点や問題点を客観的に判断し、言葉で評価できる。

関連するディプロマポリシー（DP）

絵画基礎演習

- ・教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
- ・実践を省察し、自己の学習課題を明確に

し、理論と実践を結びつけた学習ができる。（関心・意欲）

造形芸術コース

- ・造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。（知識・理解）

- ・造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして、主体的・自律的な学習ができる。（関心・意欲）

授業の方法、形態、内容の概要（両コース共通）

人物をモチーフとしたクロッキー（1ポーズ2分程度）および鉛筆デッサン（4～6授業時間で1点）を繰り返しおこなう。実習内容・スケジュールは、受講生の能力・経験度、進捗状況等に応じて変更する場合があります。

はじめに触れたように、学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースの学生では実技経験が異なり、学校教育実践コース（美術教育専修）の受講生はキャリアが浅いと考えられる。また、造形芸術コースの学生は、絵画・彫刻・デザイン・工芸のいずれかの分野で専門的な力を身につけたいと考えており、本授業がそれらの基礎実技を兼ねているのに対して、学校教育実践コース（美術教育専修）の学生は、専門性を高めることよりも、将来教師になる上で必要な実践体験として本授業を捉えていると考えられる。

目的はどうか、美術を通して修得すべきことは本質的にはひとつのことに集約されるであろう。それはいわば制作実感とでも言うべきもの、言葉による理解ではない、あるいは言葉には変換できないある種の意識を体得することである。「造形力」「追究力」「見る力（指導力を含む）」などを体得する力、つまり一種の「スタンダード」を身につけるには、広く浅く様々な体験を重ねるより、ひとつのことを繰り返しおこなう課題追求型の実習が必要であると考えられる。

以上の理由により、今回の合同授業でのカリキュラムはおおよそ次のようなものとした。

1. クロッキー（鉛筆など）

学生が交代でモデル（1ポーズ2分を5回）を務め、1回の授業でおおよそ60～80枚程度のクロッキーをおこなう。これはいわばウォーミングアップであり、次のデッサン実習に向けて「描くこと」に慣れる（気持ちの硬さを取る）目的でおこなった。また、今回は割愛したが、多様な描画材料を用いることでマテリアルの修得（描画感覚の違いを知ること）にも活用できると考える。

人体の全身を2分で描くには、集中力だけでなく、ある種の決断力のようなものが必要であり、緊張感・充実感が得られたようで、学生には例年好評である。また、学生が交代でモデルを務めることで、はやい段階である種の雰囲気作りができたことがその後の授業展開におおいに役立ったと感じている。

2. デッサン（鉛筆）

比較的長い制作時間（4～6授業時間）を設定し、画面追求力が身につくよう配慮した。ここでは、きれいに仕上げるのが重要なのではなく、追究することが重要であること、「描くこと」とは絵（描かれた形）が変化し、絵が動いていくことであることを繰り返し強調した。

今年度、特に意識して取り組んだこと

特になし。あえて言えば、先に述べた「スタンダード」。

2. アンケート結果（抜粋）

1. この授業へのあなた自身の取り組み状況について、具体的に記述してください。

- ・意欲をもって取り組むことができた。
- ・前回の注意点を振り返り、より良いデッサンができるようになった。

2. この授業であなたが新たに学んだことや修得したと感じることを具体的に記述してください。

- ・自主的に取り組む力がついた。
- ・絵に「こうでなければならない」というものはないと改めて思い、いろいろ試してみようと思えるようになりました。この授業で気持ちが楽になり、新たに学んでゆく道が開けたように思う。

3. この授業の内容について、感想を自由に記述してください。

・モデルさんへの指示をもっとしてもらえると嬉しいです。視点や手の置き方が大きく違う時があり、戸惑いました。

・種類・難易度・時間配分とも調度いいです。

・3週間かけて1つのデッサンにじっくり取り組むことができる点が大いに勉強になった。

4. 授業者の指導方法等について、評価できる点、改善を要する点などを自由に記述してください。

・とてもわかりやすいです。

・講評や指導は丁寧でわかり易いですが、講評の時間は少し長いと感じました。

・自分で学ばせるような指導でいいと思います。

・ぎりぎりまで学生に任せる点。学生のやり方に任せ、適度に指導してくれるので、学生側としては、自分自身と向き合う時間が取れてありがたいです。

・講評が面白い。

・ただ聞いて終わるではなく、自分で考えて次に活かせるように考えさせられます。

5. その他、授業環境について、困った点・要望などがあれば記述してください。

・光源が設定できたらと思います。また、窓から日が差すときは、描いたものが見えにくい時があるので、ブラインドを下ろしておくとういと思います。

・室内なのに寒い。

3. 総括

制作活動はもちろん、美術教育においても、自らの「判断力」を養うには、自分自身の「見る」という感覚を確かなものにすることが重要である。本授業では、目的（コース）の異なる受講生がそれなりの充実感を得て、影響し合いながら、次のステップへの意欲を持たたのではないかと感じている。アンケートからは、特に重要な改善の必要性は感じないが、学生各々の資質を伸ばし、創作・教育それぞれに関わる問題意識を高めるために、いっそう質の高い授業を目指したい。

